中核代理店に認定

四苦八苦で基準をクリア

・・・ん。

≪8≫

「ほけん」「あんしん」「50音締了の"ん"」

株式会社一期(いちご)保険事務所
代表取締役　石井 裕二
HP▶http://homepage2.nifty.com/ichigo/

私ごとではございますが、本年度も何とか中核代理店（※1）の認定を得る事ができました。恥ずかしながら、やっとこさといった始末でしたから情けない話です。

（※1＝本年度はTQ認定…東京海上日動クオリティ代理店認定）

中核代理店制度とは、平たく説明すると、東京海上日動の代理店セグメント制度といったところでしょうか。セグメントした代理店の能力や技能に応じ、それに見合った情報提供や支援体制が可能となり、相互にも理に適った制度なのでしょう。

もちろん、この認定は代理店手数料に大きく影響しており、認定を得られなければ相応の手数料減額となってしまいます。そのため、代理店は合併や吸収で規模を大きくするか、継続性のある売上を確保する戦略を立てなくてはなりません。このように危機感を持って取り組む流れを余儀なくされている気もします。

お客様にとって中核代理店の認定は、それほど恩恵は多くないと感じます。とはいえ、代理店の指針、対外的な評価ともなるため、あきらめるよりは認定に向け頑張った方が得策な権利となる風潮ではあります。何よりも「頑張った代理店には、相応の手数料を支払います」…の制度ですから、代理店の収益維持には最優先の事項となります。

当然その権利を獲るためには認定基準をクリアする義務も発生します。

・業務（企業体質）の確立
・コンプライアンス徹底の実務確立
・保険会社の設定した売上（挙績）の達成

おおむね、右記の認定基準をすべてクリアしなければなりません。

いずれにせよ、「基準を達成する事は代理店にとっても企業化し成長できる」…と、至極正論の制度ではありますが、現実は四苦八苦の毎日です。

「お客様のために…」といった理想は、この基準達成のための業務に取って代わり、代理店の思いは伏されてしまう現状になりつつあるような気がします。

とりわけ「ぬるま湯も良し」として代理店を選択した者にとっては足かせとしか感じられず、頑張ろうにもままならない社長はやきもきし、スタッフは疲弊の現状です。

経営理念は「思い」

業務のプロセスを重視

【さまざまな代理店さん】

この中核代理店認定にも表れるように、代理店は半ば強制的な縛りの中で存続せざるを得ない実情なのかもしれません。こうした実情を踏まえ、代理店の方向性も三極化してきました。

①即利益（挙績）を求め「販売」に集中する代理店さんと、②長期的な展望で「業務」に集中する代理店さん。そして、③すでに両方を確立し「販売と業務」のバランスに集力できる代理店さんです。前述①②の代理店さんは賛否に関わらず特化せざるを得ないでしょう。もちろん目標は③の「両立した代理店」はいうまでもありませんが、弊社は、幾度となく施策に振り回された経営をしていたように思います。

【今更ですが…】

このような現状に、今更ですが「経営理念」を再考する事にしました。実は、私自身が経営理念を掲げる事で「良かった」と実感する機会がありませんでしたので、とくに経営理念を徹底させる社風がありません。長年、東京海上日動の専属代理店でありながら、東京海上日動の経営理念さえ、この数年前まで記憶に留めていませんでした。そんな私だったのですから、どこか芯のない経営となっていたような気がします。なおさらスタッフには迷わせる姿勢で表現していたかもしれません。そもそも経営理念とは、今から創るものではなく、すでにある「思い」であると考えます。代理店として開業した頃の初心の「思い」を明文化するだけの事なのでしょう。

「経営理念」を再考するにあたり、スタッフに次のようにヒアリングしました。「一期保険事務所はどのような経営理念だと思いますか？」…この質問に際して、全員が共通した用語を見出す事はできませんでした。しかし、表現こそ違え、おおよその思いは浸透していたようですので内心ホッとした私です。つくづくスタッフが一生懸命に業務を遂行していた結果だと感じました。

弊社は、社長（私）が勝手に考えた「経営理念」より「業務のプロセス」を重視しており、「業務のプロセスに従い実行する事で、スタッフは意識する事なく経営理念として成立する」というような考え方は、あながち間違いではなかったのかもしれません。

地域密着代理店の一期一会〔11〕

株式会社ライフデザイン
代表取締役　福井 雅人
■ライフデザインHP　http://hoken-f.com/
■福井FPブログ　http://ameblo.jp/life5565/

こんにちは。ライフデザインの福井です。

先月初めて、住宅メーカーの企画でセミナーと相談会にFPとして参加させていただきました。セミナーと相談会は土曜日ということもあり、参加者はお子様連れの方が多く、住宅展示場のリビングルームで和やかな雰囲気で開催されました。

講師は私と法律の専門家であるFPと役割分担で行いました。

法律の専門家のFPは住宅税制や贈与のポイントについてお話をされ、私は人生設計の話と住宅購入の際の保険見直しについてお話をさせていただきました。

住宅相談会でセミナー

全員から人生設計の依頼

人生設計については、パソコンと大型テレビをつなげ、これから住宅取得を検討されているご夫婦の長生きした場合のシミュレーションとご主人が亡くなられた場合のシミュレーション、そして生命保険で対策した場合のお話をさせていただきました。

セミナー後、参加者全員からご自身の家庭のシミュレーションを作ってほしいとのご依頼をいただきました。今回のセミナーと相談会に関わらせていただき、住宅購入のタイミングは保障の見直しをするいい機会であることと関心も極めて高いと改めて感じました。

また参加者の方は近い将来に夢のマイホームを取得するという目的がしっかりとしており、私たちもその夢に一歩でも近づけるお手伝いができるものと思います。

今後は参加対象者の目的が明確なセミナーを他業種の方と企画し、実行していくことも大切と考えます。

現代人のカルテ

知っておきたい「病」の話 (220)

社会医学環境衛生研究所所長
谷 康平

がん発症とウイルスの関係

がん発症には多くの要因が存在
東電の責任回避にも大きな影響

世相反映する医療系国試の出題内容

8月6、7日の2日間仙台に出張してきました。ちょうど七夕祭りの最中で、仙台市内は最高に盛り上がっていた中で、空港から市内に向かう途中の風景は、やはり3月11日の爪痕が強く残っているものでした。

がれきの山、車の残骸、道路の凹凸、ほねぐみだらけになったビルなど数十分車で移動するだけで、今も3月11日であるかのような光景でした。

今回の出張は6か月後に控えた医療系国家試験の対策講義が主な目的だったのですが、これから残された半年間で勉強すべきポイントや生活習慣について学生諸氏に話をしてきました。

昨今の国家試験では現在報道されているニュースがすぐに出題されることも稀ではありません。例えば、2003年の前半に話題になった重症急性呼吸器症候群（SARS）が2004年度に出題されたり、2005年6月29日、突然クボタが従業員や近隣住民にアスベスト（石綿）による肺がんや中皮腫（胸膜にできる悪性腫瘍）が発生したとの発表を受けて、2006年度の医療系国試で早速出題されました。

また、2011年度の国試ではウイルスと悪性腫瘍（いわゆるがん）との関係について多く出題されました。その引き金は2010年からスタートした小学生に対するヒトパピローマ（乳頭腫）ウイルスのワクチン接種でした。

このウイルスに感染すると、10年、20年かけて子宮内膜が障害されて結果、子宮頸がんが発生しやすくなるのです。それゆえ「ヒトパピローマウイルス：子宮頸がん」という選択肢が多く出題されたのですが、それ以外にも微生物はがんの発生に関係しているものがあります。

①成人T細胞白血病とATLウイルス（これはレトロウイルスと呼ばれるもので、エイズの原因として知られているヒト免疫不全ウイルス（HIV）の仲間です）②上咽頭がんやバーキットリンパ腫とエプスタイン・バーウイルス（EBウイルス）③胃がんとヘリコバクター・ピロリ菌(HP)。

HPは今から20年前にオーストラリアの研究者たちが発見して、2005年彼らはノーベル医学・生理学賞を受賞しています。またHPは胃・十二指腸潰瘍の原因としてもよく知られています。

今回の福島第一原発事故による放射性物質で内部被曝させられている人達（現実には程度の違いはあっても全日本人または全地球人）が10年、20年後にがんや白血病を発症しても、それの原因が原発事故であると言い切れないことを東京電力は十分分かっていて、将来の訴訟に勝てると読んでいます。

がんの発生には多くの要因が関与するのですから、放射性物質が原因だと断定するのは現実には困難なのです。

その福島第一原発の1号機と2号機の原子炉建屋間にある主排気管の下部で毎時10シーベルト超という異常に高濃度な汚染箇所が発見されたと先日、東電は自白しました。計測器が10シーベルトまでしか測定できないものだったのですから、実際の線量はこれより高い数値を示していたはずです。

人間は毎時7シーベルト（当初言われていたマイクロシーベルトの1000倍がミリシーベルト、そしてその1000倍がシーベルトですから、マイクロシーベルトの100万倍に相当します）以上の放射線を被曝すると死んでしまいます。

2011年8月この猛暑のなかで、現場で作業している人達のいることを私たちは忘れてはならないのです。（原子力政策に関わって甘い汁を吸った人達に現場の労働力となってほしいと思うのは筆者一人ではないと思います）

残暑お見舞い申し上げます。